

## 2008年「ブロック共同宣教司牧の歩みの評価」

### 三重地区中勢ブロック

#### 1. ブロック内の「共同宣教司牧的」総合交流と補完について

##### ①ブロックし司祭団の分担

これまでブロック内の津、久居、上野、名張の各小教区を小刻みに司祭が移動するという体制であったが「時間的余裕がない、交通事故の心配、高齢への負担等」が重なり、見かけだけの共同宣教司牧であったので通常は「伊賀地区、津地区」に大別した形に変更。結果、時間的余裕も生まれ、事故の心配も解消される。しかし「司祭の高齢化での活動への支援」は永遠の課題として取り組まねばならない。

##### ②司祭団と信徒との連携体制

司祭の移動範囲を二地区に絞ったことで司祭が常駐していないところもあって十分とはいえないが連携が強化できることとなる。

##### ③意見交換とコンセンサス

評議会、ブロック会議など司祭の出席、助言をうけて意見交換及びコンセンサスを得ている。

#### 2. 「共同宣教的」な地域教会共同体の動きについて

##### ①意思決定のプロセス

分かち合い、話し合いにより意思決定をしているが共同宣教に生かされたかは不十分などころがあり、今後取り組みが必要である。

##### ②意見交換、意見の集約方法

部会から意見、提案などを受けて評議会で話し合っているが部会の活動が今一步というところもあって十分な意見集約ではない。

##### ③情報の共有

この部分についてはきめ細かく伝達して、情報が周知徹底されていると思われる。

##### ④小教区間の協力

ブロック内では、行事のお知らせはもとより、教会学校の活動のこと、共同墓地のことについては協力し、実施している。

### 3. 「共同宣教司牧」を支える活動と学びについて

#### ①奉仕や福音宣教としての意識

「釜が崎学習会」などの外部活動、教会来訪者への積極的なアプローチなどの内部活動を通じて宣教を担っているが将来的なこととして高齢化に伴う奉仕者の不足なども懸念される。

#### ②分かち合いと福音的識別

定期的な分かち合いが行われている小教区、不定期的な分かち合いを定期的にセッティングすべく努力している小教区が並列しているのが現状である。

#### ③部会やグループ活動について

部会に対して信徒各人温度差があり、加えて信徒数が少なく複数の入部を余儀なくされている所もあって彼方此方の部活動には参加できず、不活発にならざるを得ない状況にある。一部の小教区では滞日外国人との分かち合い、課題の共有化など積極的なグループ活動を促進しているところもある。

#### ④共同宣教司牧と秘跡、典礼

輪番制を取り入れて、ミサでの共同祈願、奉納等うまく稼働している一方、限られた人たちになってしまって広く参加を求めているところもある。

#### ⑤信仰入門・養成講座

求道者のための講座を設定したり、他地区での講座等に参加しているところもあるが今後神父様の移動範囲が狭まったこともあって各小教区で講座が行われやすい環境が整ったと思われる。

#### ⑥リーダー養成・信徒養成

小教区のホームページで外部発信中。が高齢化、少子化で若年層が少なく新しい信徒の養成が望まれる。